

道徳的实践力を育成する道徳の時間の工夫

— モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳の時間の授業を通して —

東広島市立三ツ城小学校 佐々木 タ子

研究の要約

本研究は、将来の道徳的实践につながる道徳的实践力を育成する道徳の時間の工夫として、「モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳の時間の授業」を実践し、その有効性について考察したものである。具体的には、問題解決型の道徳授業で道徳的問題の解決策を吟味することを通して、道徳的価値の自覚を深め、道徳的实践力を育成することを目指した。そして見出した解決策をモラルスキルトレーニングで実際に行動化し、シェアリングすることで、道徳的行為を可能にするスキルを学んだり、道徳的価値の自覚を深めたりすることを目指した。その結果、本研究は、道徳的实践につながる道徳的实践力を育成することに有効であることが分かった。

キーワード：問題解決型 モラルスキルトレーニング 道徳的实践力 道徳的实践

I 研究の目的

小学校学習指導要領解説道徳編（平成20年、以下「解説」とする。）では「道徳教育は、道徳的实践力と道徳的实践の指導が相互に響き合って、一人一人の道徳性を高めていくものでなければならない。」¹⁾と示されている。しかし「道徳教育の充実に関する懇談会」から出された「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」（平成25年、以下「報告」とする。）では、道徳の時間の課題として、「内面的資質としての道徳的实践力が強調されるあまり、道徳教育における実践的な行動力等の育成が軽視されがちな面がある。」²⁾と報告されている。押谷由夫(2013)は、内面を育てるだけではなく行為にまで移す力や、課題や問題を実際に解決する力を育成し、習慣化することの重要性を述べている。

柳沼良太(2006)は、道徳的实践につながる道徳的实践力を育成する指導方法として、児童に具体的な解決策を模索させる過程で、道徳的な思考、感情、行為を調和的に統合する問題解決型の授業を提唱している。

また、林泰成(2013)は、道徳的価値を教えながら、同時にスキルの獲得をめざすことができる指導方法である、モラルスキルトレーニングを提唱している。

そこで本研究では、問題解決を図り、内面的資質を養う道徳の時間の授業（以下「問題解決型の道徳授業」とする。）を実践することを通して、主体的に問題意識をもって道徳的価値や行動について考えさせる。この授業過程においてモラルスキルトレー

ニングを取り入れることで、実感を伴った道徳的实践力を育成する。

具体的には、問題解決型の道徳授業の展開前段において、問題場面に対する解決策を登場人物の内面に迫りながら吟味させ、道徳的価値の自覚を深める。その後、展開後段で、解決策をモラルスキルトレーニングによって実際に行動化してスキルを獲得させその時の気持ちをシェアリング（分かち合い）させる。このような道徳授業を通して、具体的な行動スキルを身に付けることができるとともに、道徳的实践力が高まり、ひいては将来的な道徳的实践につながると考えた。

道徳的实践力を育成する上でモラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳の時間の授業を行うという点で先進性があると考え、本研究題目を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 道徳的实践力を育成する道徳の時間について

(1) 道徳的实践力とは

「解説」によると、教育の目的は人格の完成であり、道徳教育は人格の完成の基本にかかわるものである。この道徳教育の目標は「道徳性」を養うことにあり、道徳教育の「要」となる道徳の時間の目標は、「道徳的实践力」を育成することとなっている。この「道徳的实践力」について「解説」では、「人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童

が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。それは、主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度を包括するものである。」³⁾と示されている。

これらのことから、道徳の実践力は人間としてよりよく生きていくための行為を支える内面的な資質であり、道徳性の基盤となるものであるといえる。

そこで神奈川県立総合教育センターの報告(2006)を基にして、道徳性の諸様相を日常の生活に当てはめて考えると、図1のようになると考える。

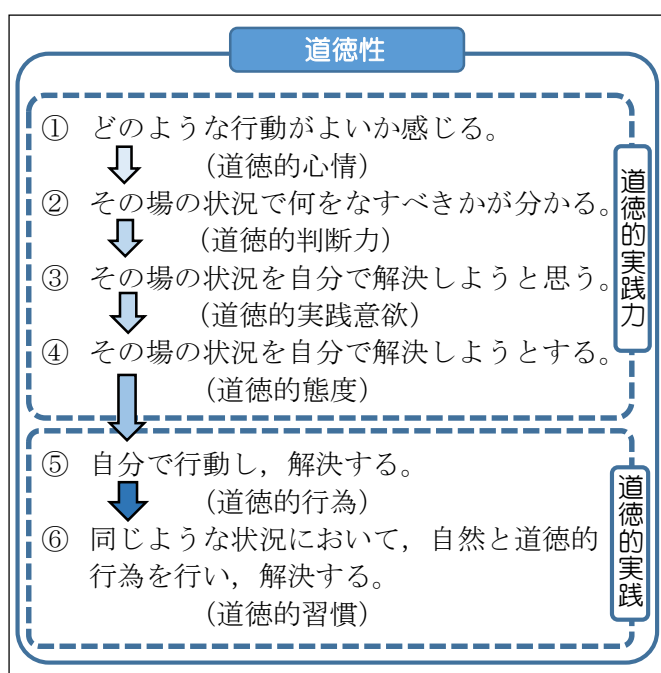


図1 日常生活における道徳性の諸様相の具体的な姿⁽¹⁾

(2) 道徳の時間において、「道徳的実践」につながる「道徳的実践力」を育成するためには

「解説」では、道徳の時間の目標を「(中略)道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳の実践力を育成するものとする。」⁴⁾と示している。このことから、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることで、道徳の実践力が育成できるといえる。この「道徳的価値の自覚」については、表1に示す事柄を押さえるよう指摘している。また、「自己の生き方についての考えを深める」ことは、「道徳的価値の自覚を深める」学習を行う中で、同時に行われると示されている。

一方、林(2012)は、「内面的資質としての道徳性や道徳の実践力が、外面的な道徳的習慣や行為へと

つながらなければ、道徳教育としては十分なものとは言えないだろう。それぞれの要素が双方向的に関係しあうような授業実践を心がけるべきである。」⁵⁾と述べている。また、白木みどり(平成26年)は、「従来、道徳の時間は即効性を求めるものではないとされてきた。しかし、近年深刻化している子どもの人間関係の希薄さや社会性の低下、家庭の教育力の低下を鑑みると、道徳の実践力を具現化する道徳の実践に繋がるような道徳授業の必要性は否定できない。」⁶⁾と述べている。また「報告」では、「『道徳の実践力』をより効果的に育成し、将来の『道徳の実践』につなげていくための手段として、役割演技(ロールプレイ)や、実生活の中でのコミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習、問題解決的な学習などの動的な活動がバランス良く取り入れられるべきである。」⁷⁾としている。

以上のことから、道徳の実践につながる道徳の実践力を育成するには、道徳の時間において道徳的価値の自覚を深めつつ、道徳的行為を可能にする具体的な行動の仕方についても身に付けさせることが重要であると考ええる。

表1 道徳的価値の自覚を深めるために押さえておく事柄

①	道徳的価値についての理解。 ・道徳的価値は大切であること。(価値理解) ・道徳的価値は大切ではあるが実現は難しいこと。(人間理解) ・道徳的価値に関しては多様な感じ方や考え方があること。(他者理解)
	② 自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること。
	③ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること。

2 問題解決型の道徳授業とモラルスキルトレーニング

(1) 問題解決型の道徳授業

柳沼(2006)が提唱する問題解決型の道徳授業は、道徳的問題の解決に取り組む経験を通して道徳的心情や道徳的判断力、道徳の実践意欲や態度を総合的に育むと共に、道徳的行為や道徳的習慣をも形成することができる道徳授業であり、具体的には次頁表2のような流れで行われる。

(2) モラルスキルトレーニング

林(2013)によると、モラルスキルトレーニングは、資料を用いて道徳的価値を教えながら、同時に、道徳的行為を可能にするスキルの獲得を目指す道徳教

育のプログラムである。日常的な生活場面における道徳的問題場面を想定したスキルトレーニングで道徳的な行動の仕方を身に付け、その際の気持ちの変化などに焦点化することを通して、道徳的实践力を育成することができる。

林(2013)が提唱する、モラルスキルトレーニングは、表3のような流れで行われる。

表2 問題解決型の道徳授業の指導過程⁽²⁾

	学習過程	具体的な活動
導入	道徳的問題の提起	・ねらいとする道徳的価値を意識する。 ・経験や事例から道徳的価値の意味を考える。
展開前段	道徳的問題の解決(資料1)	・読み物資料から道徳的問題を分析する。 ・解決策を自由に構想する。 ・解決策を吟味する。
展開後段	道徳的問題の解決(資料2)	・展開前段の問題解決の知恵やスキルを応用して解決策を考える。(役割演技、シミュレーション)
終末	道徳的問題のまとめ	・話し合った内容をまとめる。 ・授業で考えた道徳的価値を实践目標として設定し、授業後の生活に生かそうとする。

表3 モラルスキルトレーニングの学習過程⁽³⁾

	学習過程	具体的な活動
導入	資料の提示	道徳資料を意識する。
展開前段	ペアインタビュー	資料の登場人物になって2人でインタビューし合う。
	ロールプレイング1	資料の道徳的問題場面を、本人の自由な役割の創造によって実際に演じてみる。
	シェアリング1	ロールプレイングの感想を言い合う中で行動化した時の気持ちに触れ、道徳的価値の自覚を深め、望ましい道徳的行動を強化したり、改善すべき点を修正したりする。
展開後段	メンタルリハーサル	別の道徳的問題場面をイメージさせ、ロールプレイング1での学習をもとに、その場面での行動を考えさせる。
	ロールプレイング2	イメージしたものを再度演じる。
	シェアリング2	シェアリング1に同じ。
終末	課題の提示	身に付けたことを日常場面でするように、課題を出す。

3 本研究で提唱する、モラルスキルトレー

ニングを取り入れた問題解決型の道徳授業

本研究では、内面的資質としての道徳的实践力と、外面的な道徳的行動が双方向的に関係し合うような道徳授業として、図2に示すようなモラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳授業を構築する。

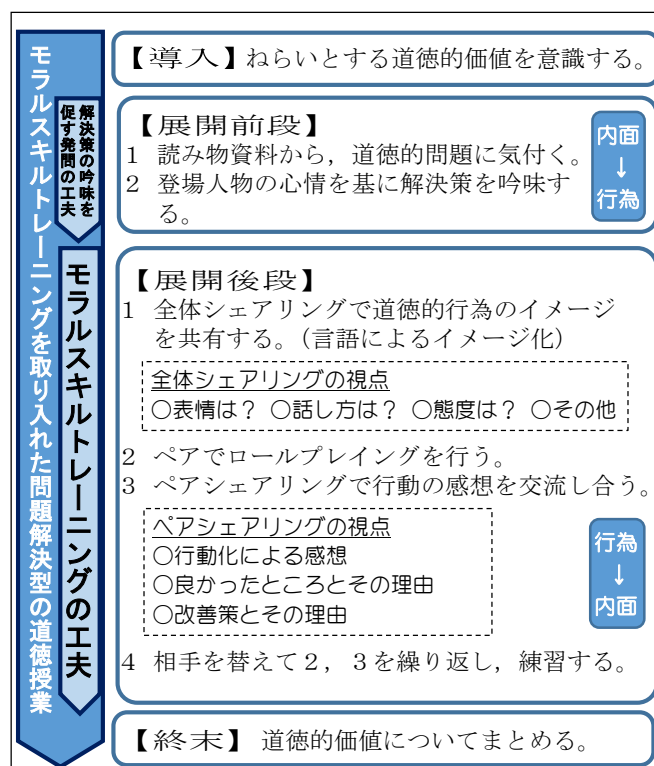


図2 モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳授業の流れ

問題解決型の道徳授業で解決策を吟味することを通して、人物の内面を基に適切な道徳的行動を見出す能力を育む(内面→行為)。そして、モラルスキルトレーニングで道徳的行動を体験することを通して、実感を伴った内面的資質の育成を図る(行為→内面)。このように、内面的資質の育成と行為の指導とを融合させることで、道徳的实践力が道徳的实践につながりやすくなることが期待できる。

(1) 展開前段における解決策の吟味を促す発問の工夫

問題解決型の道徳授業において道徳的価値の自覚を深めるために、解決策を吟味する段階での発問の工夫を行う。この、解決策の吟味を促す発問(A～F)と発問例、及び、本検証授業で主にねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために押さえておく事柄と期待する児童の反応例の関係を、表4に示す。

本研究では、道徳的価値の自覚を深めるために押さえておく事柄のうち、主に①道徳的価値についての理解と②自分とのかかわりで道徳的価値がとらえ

られることを促す。このことを通して、③道徳的価値を自分なりに発展させたいと考えた。発問A～Fを、授業のねらいや児童の実態などを考慮し、必要に応じて活用する。

表4 本検証授業で活用する解決策の吟味を促す発問によって期待される道徳的価値の自覚を深める事柄⁽⁴⁾

発問の種類	発問の例	児童の反応例	期待される事柄（詳細は表1に示す）
A：理由を問う	「どうして〇〇しましたか。」	・自分が損するから。	①（人間理解）
		・～君と同じで～だから。	①（他者理解）
		・自分も～だったから。	②
B：結果を問う	「もし、〇〇したら、どうなるでしょう。」	・（人物）は～な気持ちになる。だから～することが大切だ。	①（価値理解）
C：前提条件を変える	「〇〇のときでも、そうしますか。」	・～でも、～することが大切だ。	①（価値理解）
		・～ならば、～できない。なぜなら～。	①（人間理解）
D：可逆性を問う	「あなたがそうされてもいいですか。」	・自分でも～されたい。	②
		・自分が～されたら嫌だ。なぜなら～。	②
E：普遍性を問う	「だれにでもそうしますか。」	・誰にでも～する。	①（価値理解） ②
		・～な人には、～できない。なぜなら～。	①（人間理解） ②
F：より高いレベルの価値に気付かせる	「学級全体のことを考えると、どうでしょう。」	・～することで、自分も、相手も、みんなも～気持ちになる。だから～することが大切だ。	①（価値理解）

(2) 展開後段における内面的資質を育成するモラルスキルトレーニングの工夫

林(2013)は、モラルスキルトレーニングのシェアリングにおいて、行動の理由や心情の変化を問いかけることで道徳的価値に気付かせたり、道徳的価値の大切さを再認識させたりすることができると述べている。そこで、本研究においては、シェアリングの視点を明確にし、「全体シェアリング→ペアシェアリング」の2段階で行うことで、道徳的実践力を育成する。

まず、全体シェアリングでは、道徳的価値の実現に向けた道徳的行為のイメージを言語によって共有し、行動化への見通しをもたせる。次に、道徳的行為を実際に行い、それを通して感じたことをペアシェアリングで交流させ、道徳的価値の良さを実感をもって再認識させる。これを繰り返すことで、道徳

的行為をより確かなものにしたり、道徳的実践に向けて自信と意欲をもたせたりする。このようなモラルスキルトレーニングを通して道徳的価値の大切さや良さを実感させ、実際の道徳的問題場面において進んで道徳的行為を可能にする道徳的態度を養う。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

問題解決型の道徳授業において解決策の吟味を促す発問の工夫とモラルスキルトレーニングの工夫を行うことで、道徳的実践力を育成することができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表5に示す。

表5 検証の視点と方法

検証の視点	方法
問題解決型の道徳授業における解決策の吟味を促す発問を工夫したことで、道徳的価値の自覚を深めることができたか。	行動観察 ワークシート
モラルスキルトレーニングを取り入れたことで、道徳的態度を養うことができたか。	ワークシート 道徳の時間アンケート

3 検証のための質問紙調査

「モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳授業」の有効性について検証するために、以下のアンケートを実施する。

- 道徳の時間のワークシートによる調査を行う。
ワークシート「こんな自分になりたいな」の記述内容をもとに、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うことができたかを見取る。
- 道徳授業終了後に、道徳の時間アンケートでモラルスキルトレーニング実施後の児童の意識を問う。このことで、モラルスキルトレーニングを通して道徳的態度が養われたかを検証する。

Ⅳ 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期間 平成26年6月24日～平成26年7月8日
- 対象 所属校第5学年1組（33人）
所属校第5学年4組（33人）

	道徳の時間 1	道徳の時間 2	道徳の時間 3
月日 主題名 内容項目	平成26年6月24日 心をこめて 2－（１）礼儀	平成26年7月1日，2日 公平公正な態度で 4－（２）公正公平，正義	平成26年7月8日 思いやりの心 2－（２）思いやり・親切
ねらい 資料名 【出典】	挨拶をしようかと迷う「私」はどうするべきかを話し合わせることを通して，挨拶の意義について気付き，心をこめて挨拶をしようとする態度を養う。 「あいさつしなくても・・・」 【自作資料】	友達の陰口を聞いた「私」がどうするべきかを話し合わせることを通して，誰に対しても偏見をもたず公正公平に接することの大切さに気付き，正義の実現に努めようとする態度を養う。 「笑ちゃん」【自作資料】	電車で席を譲ろうかと迷う男の子がどうするべきかを話し合わせることを通して，思いやりについて考え，相手の立場に立って温かく接しようとする態度を養う。「あれでよかったの？」 【光村図書（一部抜粋）】
モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳授業	1 ねらいとする道徳的価値にふれる。 2 資料「あいさつしなくても・・・」を読んで話し合う。 (1) 道徳的問題に気付き，課題をもつ。 (2) 登場人物の心情を基に， 解決方法を吟味 する。 ○「私」はどうしたらいいのでしょうか。 ◎挨拶をしたら（挨拶をしなかったら），どうなるでしょう。〈発問B〉 ◎もし，相手が気付いてくれなくても挨拶をした方がいいのでしょうか。〈発問C〉	1 ねらいとする道徳的価値にふれる。 2 資料「笑ちゃん」を読んで話し合う。 (1) 道徳的問題に気付き，課題をもつ。 (2) 登場人物の心情を基に， 解決方法を吟味 する。 ○「私」はどうしたらいいのでしょうか。 ◎なぜ，人にばれないように先生に言うのですか。〈発問A〉 ◎もし，注意をしたら（注意をしなかったら），どうなるでしょう。〈発問B〉 ◎クラス全体のことを考えたら，どうすればいいのでしょうか。〈発問F〉 ◎相手が仲の良い友達でも注意しますか。〈発問E〉 ◎あなたが沙紀ちゃんの立場でも，注意してほしいですか。〈発問D〉	1 ねらいとする道徳的価値にふれる。 2 資料「あれでよかったの？」を読んで話し合う。 (1) 道徳的問題に気付き，課題をもつ。 (2) 登場人物の心情を基に， 解決方法を吟味 する。 ○「男の子」はどうしたらいいのでしょうか。 ◎もし，席を譲ったら（譲らなかったら），どうなるでしょう。〈発問B〉 ◎あなたがおじいさんの立場でも，尋ねて欲しいですか。〈発問D〉 ◎最初の思いやりと最後の思いやりでは，どのように違うのでしょうか。〈発問F〉
	3 話し合いを基に， モラルスキルトレーニング を行う。 (1) 全体シェアリングを行い，行動化のイメージをもつ。 (2) ロールプレイングとペアシェアリングを行う。 4 学習のまとめをする。	3 話し合いを基に， モラルスキルトレーニング を行う。 (1) 全体シェアリングを行い，行動化のイメージをもつ。 (2) ロールプレイングとペアシェアリングを行う。 4 学習のまとめをする。	3 話し合いを基に， モラルスキルトレーニング を行う。 (1) 全体シェアリングを行い，行動化のイメージをもつ。 (2) ロールプレイングとペアシェアリングを行う。 4 学習のまとめをする。
主な発問（○）， 解決策の吟味を促す発問（◎）			

図3 道徳の時間の概要と実施状況

2 研究授業の概要

道徳の時間において，2－（１）礼儀，4－（２）公平公正，正義，2－（２）思いやり・親切を主題として授業を行った。道徳の時間の概要と実施状況を，図3に示す。

「笑ちゃん」の授業で，注意することは大切だが，自分がやり返されることを考えたら注意できないという児童の意見を捉え，「B：結果を問う発問」を行ったところ，次のような話し合いが行われた。

V 研究授業の分析と考察

1 解決策の吟味を促す発問をしたことで，道徳的価値の自覚を深めることができたか。

道徳的価値の自覚が深まったかを見取るために，前述の「道徳的価値の自覚を深めるために押さえておく事柄」の3点について，発問に対する児童の反応を整理し，検証していく。

(1) 道徳的価値について理解することができたか。

ア 価値理解を深めることができたか。

T：では，もし，ずっと注意しないでいたらどうなるでしょう。（発問B）
C：笑ちゃんへの悪口がエスカレートしていく。
C：「私」も悪口を言われるようになる。
C：そうしたら，「私」も笑ちゃんも，これまでよりもっと辛くなるね。
C：そう考えたら，やっぱり，注意した方がいいね。

児童は，注意しないでいると相手も自分ももっと辛くなるということに気付き，だからこそ注意することが大切だと，改めて道徳的価値の大切さを認識した。さらに，「F：より高いレベルの価値に気付かせる発問」を行うと，次に示すような発言につながった。

T: クラス全体のことを考えたらどうでしょう。(発問F)
 C: 注意しないままだと、いろんな人が悪口を言い合うようなクラスになってしまう。そんなクラス、嫌だ。
 T: では、誰かが注意をしたら、どうなるでしょう。
 C: きっと、他の人も注意をするようになる。
 C: みんなが気持ちよく過ごせるようになるね。

児童は、私心にとらわれ不正を許すことで、結果的に、自分や相手だけでなく、集団としても気持ちよく生活ができなくなるという集団や社会という広い視点で道徳的価値を捉え、クラスのみんなで力を合わせて差別や偏見をなくそうとすることが大切だということにまで、道徳的価値の理解を深めることができた。

また、「あいさつしなくても・・・」の授業では、「C: 前提条件を変える発問」を行ったことで、次のような児童の反応があった。

T: 相手が気付いてくれなくても、挨拶をした方がいいと思いますか。(発問C)
 C: 気付いてくれなくても、挨拶をすることは大切だよ。
 C: 勇気を出して挨拶できたことは、自分の自信になって、次も挨拶しようって思える。次につながるよ。

児童は、それまでとは違った視点で道徳的価値について考え、道徳的価値の大切さを改めて認識した。

イ 人間理解を深めることができたか。

「笑ちゃん」の授業では、「A: 理由を問う発問」や「E: 普遍性を問う発問」を行ったことで、次に示すような発言につながった。

T: なぜ、ばれないように先生に言うのですか。(発問A)
 C: 先生に言ったのがばれたら、自分がのけ者にされる。
 C: 注意した方がいいけど、のけ者にはされたくないよ。

T: 相手が仲の良い友達でも、注意しますか。(発問E)
 C: 仲良しの友達だったら注意できないかもしれない。注意したら、自分と相手の間に溝ができそう。

児童は、注意することが正しいことではあるが、のけ者にされたくないという私心にとらわれ、実行を戸惑う自分の弱さに気付くことができた。

ウ 他者理解を深めることができたか。

「笑ちゃん」の授業で「E: 普遍性を問う発問」を行うと、次のような、多様な意見が出された。

T: 相手が仲の良い友達でも、注意しますか。(発問E)
 C: 仲良しの友達だったら注意できないかもしれない。
 C: 仲良しだから、注意した方がいい。注意しないと、大好きな友達が悪い人になってしまうかもしれない。
 C: 注意しなかったら、その子はだんだん周りのみんなから嫌われるようになってしまうよ。

C: 仲良しだからこそ、注意できるんじゃないかな。

児童は、自分の意見と友達の意見とを比較しながら考え、道徳的価値については、人によって感じ方や考え方は多様であることに気付くことができた。

このように、解決策の吟味を促す発問(A, B, C, E, F)を行うことで、価値理解、人間理解、他者理解が深まり、道徳的価値の理解を促すことができた。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値を捉えることができたか。

「あれでよかったの?」や「笑ちゃん」の授業では、「D: 可逆性を問う発問」を行ったことで、次に示すような話合いが行われた。

T: 皆さんが沙紀ちゃんの立場でも、注意してもらいたいですか。(発問D)
 C: 優しく注意してもらえたら、素直に反省できそう。
 C: 注意してもらいたい。だって、そのまま悪口を言い続けたら、逆に自分が嫌われそうだから。

T: 皆さんがおじいさんの立場でも、座りたいかどうかを尋ねてもらいたいですか。(発問D)
 C: 座りたくなくても遠慮して断れない時があるから、尋ねてもらった方がいい。
 C: 尋ねてもらったら、自分の思いを素直に言えそう。

児童は、「もし自分が相手の立場だったら」と、当事者としての視点で道徳的価値を捉え直し、道徳的価値の良さや大切さを改めて感じていた。

(3) 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うことができたか。

発問A～Fを行い、自分とのかかわりで道徳的価値の理解を深めたことで、全ての児童が「これからこんな自分になりたい」と、道徳的価値に対して自分なりの今後の課題をもち、ワークシートに記述することができた。その記述内容を、図4に示す。

「あいさつしなくても・・・」
 ・大きな声で明るい挨拶をしよう。
 ・誰にでも進んで挨拶をしよう。
 ・相手が気持ち良くなるような挨拶をしよう。
 「笑ちゃん」
 ・迷わずきちんと注意をしよう。
 ・いつでも誰にでも正しいことをしよう。
 ・相手の気持ちを考えながら注意をしよう。
 「あれでよかったの?」
 ・相手の気持ちを考えて親切にしよう。
 ・誰にでも親切ができる自分になろう。
 ・失敗を恐れず親切にしよう。

図4 課題の記述内容

これらのことから、問題解決型の道德授業において解決策の吟味を促す発問の工夫を行ったことで、道德的価値の自覚を深めることができたと考える。

2 モラルスキルトレーニングを取り入れたことで、道德的態度を養うことができたか。

道德の時間アンケートにおけるモラルスキルトレーニングについての感想(複数回答)から、道德的行為を可能にするスキルを学んだり道德的価値の良さを実感したりしたことで道德的実践につなげようとする態度に係る【道德的態度に係る記述】と、道德的価値の良さを実感したという感想に留まった【道德的価値に係る記述】の件数で、道德的態度が養われたかを判断する。両者の判断基準を表6に示す。

表6 モラルスキルトレーニングを通した道德的態度の育成に係る判断基準

【道德的態度に係る記述】

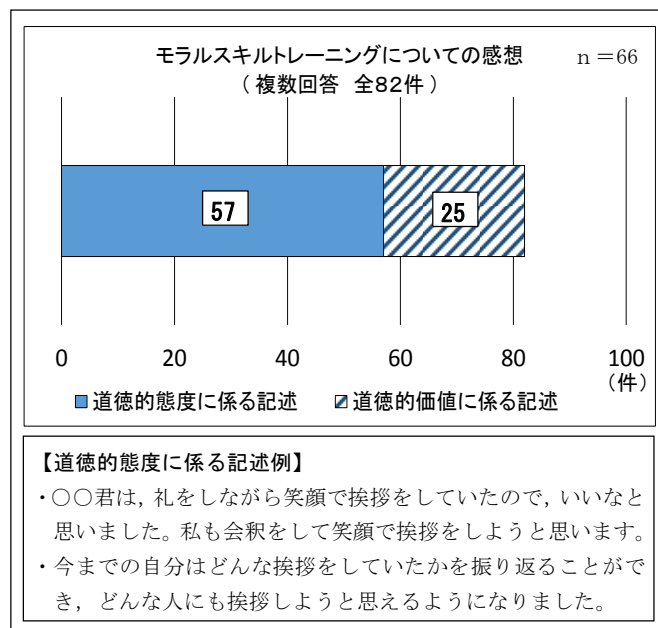
- ・(道德的価値を大切にしたい)〇〇の仕方が分かった。だから、これからは〇〇という生き方をしていこう。
- ・〇〇を実践する自信がもてた。だから、積極的に実践していこう。
- ・友達がアドバイスしてくれたことを生かして、これから〇〇しよう。

【道德的価値に係る記述】

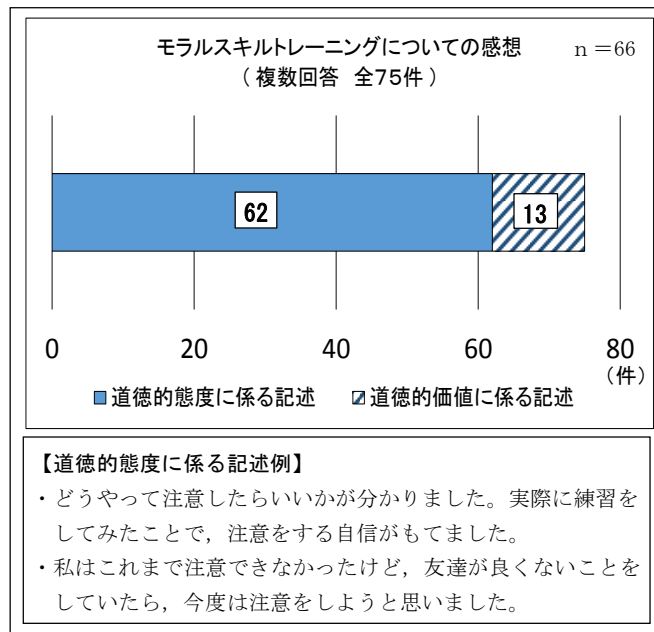
- ・〇〇することの良さを実感した。
- ・〇〇するって、大切だなと感じた。

アンケートの結果、両者の件数と、【道德的態度に係る】主な記述例は、次の通りであった。

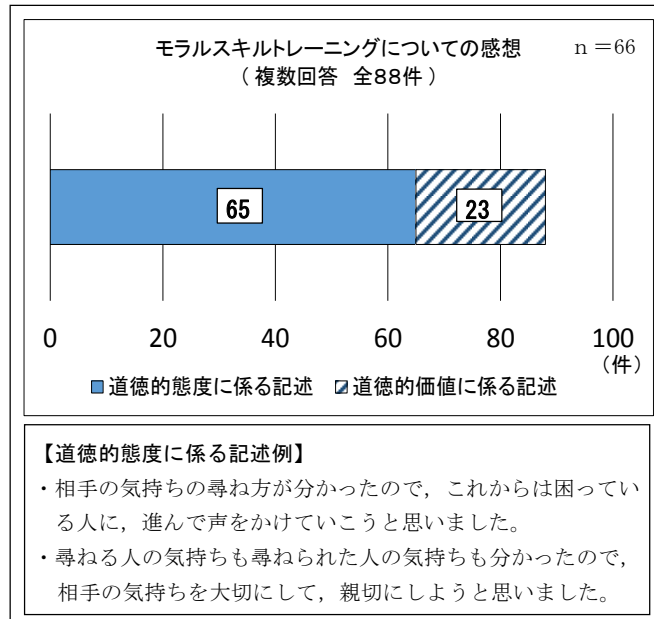
○道德の時間1 資料名「あいさつしなくても・・・」



○道德の時間2 資料名「笑ちゃん」



○道德の時間3 資料名「あれでよかったの？」



回答した全児童数に対する、【道德的態度に係る記述】をした児童の割合は、それぞれの授業で86%、94%、98%と、どの授業実践においても高い結果となった。記述内容を見てみると、スキルを学んだことで、実生活でも使ってみようという意欲が高まったり、「自分にもできる。」という自信につながったりしたことが分かる。また、【道德的価値に係る記述】に留まった児童も、「実際に挨拶すると、話しかける時のドキドキする気持ちや、言えた時のスッキリした気持ちを味わうことができて良かった。」「相手に気持ちを尋ねてみると、相手の考えがよく伝

わってきた。相手のために自分は何をしたらいいかがはっきり分かって、自分もすっきりした。」など、モラルスキルトレーニングを通して道徳的価値の良さを改めて実感したという記述が多く、将来の道徳的行為につながることを期待できると感じた。

これらのことから、モラルスキルトレーニングを取り入れたことは、道徳的態度を養うことに有効に働いたといえる。

一方、「今日の練習では、まだ自信がもてなかった。」「もっと練習をしたかった。」という記述をした児童もあり、モラルスキルトレーニングの時間をより多く確保する必要があると考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

「モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳授業」において、展開前段で解決策の吟味を促す発問の工夫を行い、展開後段で内面的資質を育成するモラルスキルトレーニングの工夫を行った。その結果、児童は展開前段で多様な視点から道徳的価値について考え、道徳的価値の自覚を深めることができた。また、展開後段では実感を伴った道徳的態度を養うことができた。以上のことから、モラルスキルトレーニングを取り入れた問題解決型の道徳授業を行うことで、道徳的実践につながる道徳的実践力を育成することができるといえる。

2 今後の課題

- 問題解決型の道徳授業では、児童の生活場面で見られがちな道徳的問題場面における解決策を吟味していくので、児童がその問題場面にとらわれ過ぎて、他の場面への応用が難しい児童もいた。ワークシートの記述も、「近所の人に挨拶をしよう。」「進んで席を譲ろう。」など、授業で使った読み物資料における問題場面に限定した記述をしている児童もいた。今後、授業のどの場面で、どのように一般化を促していけば良いのかという視点での研究も必要である。
- モラルスキルトレーニングを更に充実させていくことで、より効果的に道徳的実践につながる道徳的実践力を育成することができる。しかし、そのためには時間の確保が課題となる。そこで今後は、2単位時間や60分で行う等、授業時間を弾力的に運用していくことも考えられる。また、モラルスキルトレーニングの様々な活用の仕

方を研究していく必要を感じた。展開後段だけでなく、導入や展開前段でもモラルスキルトレーニングを取り入れるなどの活用方法の工夫が考えられる。

【注】

- (1) 日常生活における道徳性の諸様相の具体的な姿は、露木佳子(2006):「生徒の自己理解に基づく道徳の指導と評価のあり方」『神奈川県立総合教育センター 長期研修員研究報告4』p.50を参考にして、稿者が作成した。
- (2) 問題解決型の道徳授業の指導過程は、柳沼良太(2006):『問題解決型の道徳授業』明治図書 pp.25-34を参照されたい。
- (3) モラルスキルトレーニングの学習過程は、林泰成(2013):『モラルスキルトレーニングスタートブック』明治図書 p.24を参照されたい。
- (4) 解決策の吟味を促す発問は、柳沼良太(2006):前掲書 p.33を参考にして、稿者が作成した。

【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成20年):『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社 p.31
- 2) 道徳教育の充実に関する懇談会(平成25年):『今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)』p.7
- 3) 文部科学省(平成20年):前掲書 pp.30-31
- 4) 文部科学省(平成20年):前掲書 p.29
- 5) 林泰成(2012):「“モラルスキルトレーニング”であたらしい道徳授業をつくる⑧習慣と行為と道徳性」『道徳教育2012年8月号』p.87
- 6) 白木みどり(平成26年):『道徳教育2014年3月号』pp.18-19
- 7) 道徳教育の充実に関する懇談会(平成25年):前掲書 p.12

【参考文献】

- 文部科学省(平成20年):『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社
- 押谷由夫(2013):『道徳の時代がきた!』教育出版
- 柳沼良太(2006):『問題解決型の道徳授業～プログラマティック・アプローチ～』明治図書
- 林泰成(2013):『モラルスキルトレーニングスタートブック』明治図書